

7月6日(金)山陽小野田市立埴生中学校で、山口大学の山本教授による防災教育講座開催

埴生中学校の3年生39名の生徒が参加して、山口大学農学部生物資源環境学科の山本晴彦教授による防災教育講座が開催されました。

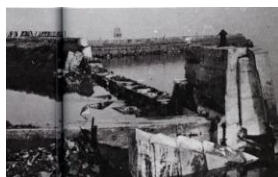
当日のテーマは、
台風と高潮災害についてー 埴生のまちを知るー
でした。

台風と高潮災害（過去の歴史と発生メカニズム）について

○ 埴生では過去、どのような高潮被害があったのだろうか？

・周防灘台風（1942年）

最低気圧 950hPa、最大風速 34m/s の台風が、九州西岸及び周防灘沿岸を北上し、高潮により堤防が決壊するなどして、山口県内で死者・行方不明者併せて792名の大きな被害が発生しました。



・9918号台風（1999年）

中型で強い勢力を維持したまま宇部市付近に上陸し、山口県を縦断したため、各地に暴風雨・高潮による被害をもたらしました。



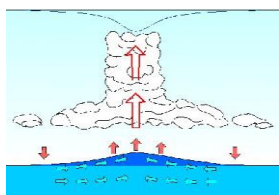
特に、周防灘沿岸では記録的な高潮となりましたが、日中だったため人的な被害は最小限に抑えられました。しかし、高潮・高波による浸水や家屋被害が多く発生しました。

○ 高潮発生メカニズムと潮位上昇の条件

① 吸い上げ効果

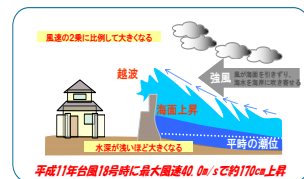
台風の中心部は気圧が低く、空気が海面を押さえつける力が弱まるため、水位が上昇すること。

※気圧が1ヘクトパスカル（hPa）下がると海面が1cm上昇します。



② 吹き寄せ効果

沖から沿岸に向かって強い風が吹き続けると、海水が岸に吹き寄せられて水位が高くなること。



遠浅の海岸やV字型の湾（周防灘）の奥は、特に吹き寄せ効果の影響が大きく水位が上昇します。

※海面の上昇は風速の2乗に比例し、風速が2倍になると海面の上昇は4倍になります。

③ 潮の満ち引き（天文潮）

太陽や月の影響で潮位は上下します。海面が最も高くなる大潮の満潮時と台風通過が重なると、高潮被害が予測されます。

④ 台風の進路

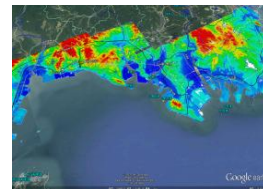
台風は一般的にその中心よりも進行方向に対して右側（南東側）のほうが風雨が強くなります。これは、台風をめぐって吹き込む風と台風本体を押し流す気流の向きが同じであるために、より強く風が吹き荒れるためです。

○ 埴生のまちを知ろう

・ 埴生地区は瀬戸内海の西端に位置し、南東側が開けており、吹き寄せ効果による海面上昇が特に大きい場所です。



・ 海岸線には山が迫っており干拓地も多く、低地が多いところです。



・ 台風が九州の西側から日本海を進み満潮時と重なる場合、大きな被害が出る恐れがあります。

